

第6学年 音楽科学習指導案

児童 6年A組 29名
指導者 沖津 陽子
日岡 好子

1 題材 日本の音楽を味わおう

2 題材の目標

- (1) 曲想と旋律や音色など、音楽の構造との関わりについて理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーや鍵盤ハーモニカを演奏する技能を身に付ける。
- (2) 旋律、音色、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 我が国に伝わる音楽や楽器に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。

3 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、音楽の学習に意欲的に取り組むことができる。昨年度、器楽合奏で阿波踊りのぞめきにチャレンジしたところ、休み時間にも友達と教え合いながら三味線や篠笛を演奏する姿が見られた。

鑑賞の学習では、昨年度から「オーケストラの音楽を楽しもう」という題材で学びを積み重ねてきている。注目するポイントをしぼり、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考える学習を進めてきた。聴き取ったことと聞き取ったことを結び付けてワークシートに記述できる児童も増えてきている。そこで、それぞれが気付いたことや聞き取ったことをグループで話し合ったり伝え合ったりすることによって、学級全体でさらに学習を深めていきたいと考えている。

(2) 教材について

表現教材 「越天楽今様」

数ある雅楽の中で最も広く知られている楽曲が「越天楽」で、その旋律に今様の歌詞を付けて歌われたものが「越天楽今様」である。仏教賛歌、学校唱歌、民謡「黒田節」など多くの曲のなかにその旋律が取り入れられていて、親しまれている。半音を含まない日本の音階からなる、簡潔で優雅な旋律をもつ端正な形式の曲である。また、四季の花鳥風月を愛でる詩からは、平安時代の貴族社会の優雅な世界を垣間見ることができる。

鑑賞教材 「春の海」 宮城道雄作曲

箏と尺八の二重奏曲である。作曲家の宮城道雄が瀬戸内海を旅行したときに感じ取った海辺の印象を描写したものであるといわれている。箏と尺八の音色に親しむことのできる楽曲である。

(3) 指導にあたって

表現教材「越天楽今様」では、歌詞の七五のリズムを感じ取らせたり、旋律の雰囲気を生かした歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫したりする。篠笛やリコーダーと鍵盤ハーモニカの旋律を合わせることによって、楽曲の雰囲気を味わわせたい。

鑑賞教材「春の海」では、日本の伝統的な楽器である箏や尺八の音色に関心をもち、情景を思いうかべながら聴く。箏と尺八のかけ合い、速度の変化などに注目して聴く。

本時では、箏と尺八のかけ合いに注目して聴く。それぞれが思いうかべた情景をグループで話し合い学級全体で共有する活動を通して、考えを深めさせたい。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解している。(器楽)</p> <p>②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーや鍵盤ハーモニカを演奏する技能を身に付けている。(器楽)</p> <p>③知 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞)</p>	<p>思① 旋律や楽器の音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p> <p>思② 旋律、音色、呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p>	<p>態①我が国に伝わる音楽や楽器に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。(器楽、鑑賞)</p>

5 指導と評価の計画

次	時	教材	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	◇評価規準		◆評価方法		要素
				知・技	思	態	知	
一 次	①	越天楽今様	◎旋律や音色を感じ取りながら、表現を工夫する。	<p>知</p> <p>① ◆発言内容</p> <p>技</p> <p>② ◆演奏聴取</p>	<p>思</p> <p>① ◆活動観察</p>	<p>態</p> <p>① ◆演奏聴取</p>	<p>旋律</p> <p>音色</p>	
	②		○雅楽や今様について知る。 ・楽器の音色の特徴を感じ取って聴く。 ○「越天楽今様」を歌い、曲の雰囲気をつめる。 ・歌詞の言葉について、内容を理解し、情景を思い浮かべて歌う。 ・呼吸や発音に気を付けて歌う。 ○篠笛の旋律を演奏する。 ・篠笛とリコーダーを選んで演奏する。 ・リコーダーは、タンギングしないで、演奏する。 ○うたと楽器に分かれて、表現の工夫をする。 ・うた、篠笛・リコーダー、鍵盤ハーモニカから自分の受け持つパートを選ぶ。 ・声の出し方、リコーダーや鍵盤ハーモニカの息づかいを工夫する。 ・全員で合奏する。					
	③							
一 次	④	春の海	◎曲想及びその変化を感じ取りながら、曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴く。	<p>知</p> <p>③ ◆ワークシート ◆発言内容</p>	<p>思</p> <p>② ◆活動観察 ◆発言内容 ◆ワークシート</p>	<p>態</p> <p>① ◆ワークシート ◆活動観察</p>	<p>呼びかけとこたえ</p> <p>変化</p>	
	⑤ (本時)		○「春の海」の雰囲気を感じ取り、楽器の音色に気を付けて聴く。 ・情景を思い浮かべながら聴く。 ・作曲者について知る。 ・箏と尺八について知る。 ・はじめの部分を聴き、旋律のかかわり合いについて気付いたことを話し合う。 ○旋律の変化と曲想の変化に注目して聴く。 ・「なか」の部分の聴き、はじめの部分と変化しているところに注目して聴く。 ・箏と尺八の音色を手掛かりに呼びかけとこたえの面白さについて話し合う。 ○曲全体を味わって聴く。 ・フルートとハープで演奏される「春の海」を聴き、箏と尺八による演奏との感じの違いについて話し合う。 ・箏と尺八で演奏される「春の海」を聴き、曲全体を味わって聴く。					
	⑥							

6 本時の学習

(1) 目標 旋律の特徴や曲想の変化に注目して、情景を想像しながら聴く。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	◇評価規準◆評価方法	要素
1 本時のめあてをつかむ。	○前時を振り返り、本時のめあてを確認させる。		旋律 音色 呼びかけ とこたえ
情景を思いうかべながら聴こう			
2 「なか」の部分聴いて、旋律や楽器の音色と想像かべた情景とのかかわりについて話し合う。	○話し合った内容をもとに自分の考えをまとめられるように助言する。	◇思・判・表② ◆活動観察・発言内容 ワークシート	
3 演奏を聴き、確認したことや新たに感じ取ったことや友達を感じ方から学んだことを伝え合う。	○聴き取ったことと感じ取ったこととのかかわりを意識して記述するよう助言する。		
4 本時のまとめをする。	○次時の学習への意欲付けをする。		

(3) 評価および指導（手立て）

「十分満足できる」と判断される具体的な状況	<ul style="list-style-type: none"> ・箏と尺八の旋律や音色を聴き取り、その面白さや美しさを感じ取りながら、曲全体を味わって想像豊かに聴いている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律を歌ったり、楽器カードで確かめたりして、楽器の音色と呼びかけとこたえに気付かせる。 ・情景が思い浮かばない児童には、友達の考えを参考にさせる。

